

# 同窓会だより

編集発行 長崎医学同窓会  
長崎市坂本町12-4  
長崎大学医学部内  
印刷所 三省堂印刷所  
長崎市幸町4-28

柔らかな巨星はとうとう落ちてしまった。でもたまは昇天されたのである。  
昭和五十一年一月二十日午後十時三分  
古屋野宏平先生は静かに安らかに目を閉じられた。十善会病院の病室で、主治医をはじめ、関係の方々の懸命の治療看護も及ばず、令息御一統の見守るなかで。後八カ月で満九十歳の高齡であった。岡山県出身、五高、京大医学部、



(故・古屋野宏平氏)

同大学院を経て大正十一年長崎医専の教授(外科学担当)、続いて長崎大教授、欧州留学。  
私は学生時代より、そして外科

## 恩師 古屋野宏平先生を憶う

宮城重信

召集した。その席には佐世保進駐軍のギヤロー大佐ほか数名の米軍将校が列席していたが、サムス大佐は古屋野先生に「長崎医科大学(海軍病院)より直ちに退任(海軍病院)に就任せよ」との命令を下した。古屋野先生の心中には医療設備の不十分な疎外院に移るより浦上原頭の大佐の再建を急ぎこそ一日も早く帰国したかったもので、それまで比較的大規模の大きい大村病院に

面が強し印象として残っている。それは原爆による破壊(かいじん)に帰した長崎医科大学の復興についての熱心からのものであった。終戦直後長崎中央病院(現長崎大)の国立長崎中央病院に宿借りをしていた。いくばくもなく(昭和二十二年)マッカーサー司令部のサムス大佐(占領軍司令部厚生部長、後に準将)は古屋野先生、中山県衛生課長ほかわれわれを長崎市出島税関の一室に

このたび、「長崎大学に歯学部」との要請に基づき、四月一日付で来崎致した佐々木でございます。  
長崎は西欧医学の発祥の地ともいふべきであり、この栄ある長崎大学を母胎と致しまして、何とかなしい歯学の源流を築くよう、微力ながら努力致したい所存でございます。宜敷く御高覧



佐々木元賢

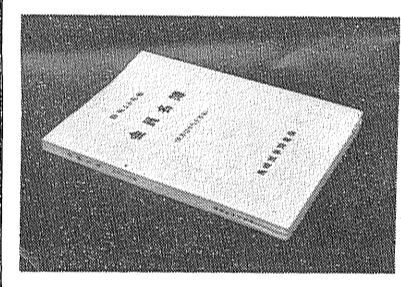
長崎大学医学部口腔基礎医学講座教授

### 長崎大学に歯学部を

佐々木元賢

をお願い致します。  
大学当局は、昭和五十四年度に歯学部開設(学生募集)と申しております。大学設置標準では、学生定員八十名で、十八講座(解剖一、二、生理、病理、薬理、微生物、生化学、理工学の基礎講座と口腔外科一、二、保存一、二、補綴一、二、歯科矯正、予防歯科、小児歯科、歯科放射線科の臨床講

する歯学部設置促進委員会が結成され、積極的に設置推進運動が展開されているのであります。  
しかし、何かともあれ、歯学部開設には見当分の医学部ならびに同窓会の諸先生の全面的な御援助がなくては不可能でありまして、重ねて宜敷く御高配の程をお願い致します。  
私が歯学部に口腔科学の道に



同窓会会員名簿発刊  
長崎医学同窓会の会員名簿が発刊されました。購入ご希望の方は

同窓会本部よりお願い  
長崎医学同窓会の本部会費は、従来入学時に終身会費として五、〇〇〇円(五十一年度より一〇、〇〇〇円)を納入していただきましたが、五十一年一月の同窓会におきまして、財源不足が問題になり、卒業後、年間一、〇〇〇円を納めるよ

れども、あらゆる困難を乗り越え耐えしのぶ生涯十字架を背負う先生の間、そのものが中核となったことは事実である。  
このような人柄と功績が認められて長崎市内各界にも推薦されたはずである。  
古屋野先生の号は「鐘雨」である。この鐘雨先生は、昭和二十年の昔で書かれたのは、日本に初めて人体解剖が行われたのは、宝暦二年(一七五四)でした(京都・山脇東洋)。  
その僅か二年後の宝暦四年(一七五六)には、都を遠く離れた熊本に、時の藩主細川重賢(霊感公)の命により、村井見村が医学寮(再春館)を創設しました。この再春館こそ実には、近代医学史上の重要な功業とされています。九州各地から応募する者数百人、その中から選抜二、三九名、推薦三〇名で、第一回入学者は二、六九名の驚異的数字に達したとあります。

職名	氏名	所属(旧)	月	日
教 授	金 光	京都府立総合医療センター(原研)	4	1
助 教	佐々木元賢	長崎大学医学部	4	1
教 授	近藤 直夫	大阪府立中央病院	4	1
助 教	奥村 寛	大阪府立中央病院	4	1
助 教	加藤 泰昭	大阪府立中央病院	4	1
助 教	那須 一三	大阪府立中央病院	4	1
助 教	村松 福三	大阪府立中央病院	4	1
助 教	立石 好光	大阪府立中央病院	4	1
助 教	岡田 博三	大阪府立中央病院	4	1
助 教	西村 柳介	大阪府立中央病院	4	1
助 教	坂本 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	宮川 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	富山 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	青柳 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	小林 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	山崎 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	林 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	山田 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	川崎 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	古川 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	赤司 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	赤司 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	赤司 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	赤司 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	赤司 正司	大阪府立中央病院	4	1
助 教	赤司 正司	大阪府立中央病院	4	1

### 人事

日本最初、西洋医学を組織的に教育する学校が、ポンペによって長崎の地に設立されたのは、百二十年の昔でした。日本に最初に人体解剖が行われたのは、宝暦二年(一七五四)でした(京都・山脇東洋)。  
その僅か二年後の宝暦四年(一七五六)には、都を遠く離れた熊本に、時の藩主細川重賢(霊感公)の命により、村井見村が医学寮(再春館)を創設しました。この再春館こそ実には、近代医学史上の重要な功業とされています。九州各地から応募する者数百人、その中から選抜二、三九名、推薦三〇名で、第一回入学者は二、六九名の驚異的数字に達したとあります。  
肥後医育二百周年に際し、熊本大学医学部で記念行事を計画し、長崎の西洋医学発祥百年記念事業に習って基金を開始、熊本県医師会員として、支部の皆様にも援助を頂戴しました。石油ショックのため、当初計画が大幅に狂いました。が、小倉ながら一応今年にその記念館の建築を終えました。十一月の九州医師会医学会の際には、その資料館が一般に公開され

同窓会だより二号を予定よ

熊本支部長 田中育郎